



来賓挨拶

厚生労働省大臣官房厚生科学課長

福島 靖正

まず、助成を受けられた皆様に心からお慶びを申し上げたいと思います。

今回 21 回目の助成であり、ヘルスリサーチフォーラムも第 19 回ということで、20 年に亘って運営していただいているファイザーヘルスリサーチ振興財団の皆様方に心から敬意を表したいと思います。

また、私も選考委員の端くれですが、永井先生をはじめ選考にあたった先生方にも心から感謝を申し上げます。

私は今行政におりますが、元々は公衆衛生院（今は保健医療科学院と名前は変わりました）の研究職を振り出しとしています。本日はヘルスリサーチというテーマで助成がされているわけですが、公衆衛生という分野はまさに学際的な領域で、健康の問題を医学だけではなく色々な領域の学問を使ってどうやって QOL を上げていくか、あるいは健康格差をなくしていくのか、ということをテーマに仕事をしてまいりましたので、そうしたものに対する助成は非常に重要なことと理解しております。その意味でこの財団の研究助成は意義が大きいと感じております。

ご承知のように、わが国の少子高齢化はますます進んでいきます。わが国は寿命も健康寿命も長く、またわが国の保健医療システムは世界の中でも非常に優れているという評価をいただいているわけではありますが、一方で、このままの状況が続くと非常に大変なことになる。疾病構造の問題もありますし、また、社会を支える労働力人口の問題もあります。あるいは、病気と共に生きていく人たちが増えるということもあります。そういう面で、このヘルスリサーチという領域がますます発展していく必要があると、私は考えております。

そういう中で、今日助成をお受けになった皆様方が今後のヘルスリサーチを支えて下さることになるのだろうと思っておりますし、皆様方の活躍がわが国の国民の QOL の向上に貢献いただけるものと確信しております。

今回で 21 回目ということですが、30 回、40 回とは非助成を続けていただいて、ますますヘルスリサーチが発展することを祈念するとともに、国民の QOL が向上することを心から祈念いたします。

最後になりましたが、ファイザーヘルスリサーチ振興財団のますますのご発展と、本日ご参加の皆様のご活躍を心から祈念申し上げて、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は大変おめでとうございます。